

WEBGISを活用した意見収集と調整方法

足利工業大学 学生会員 ○木村 周作
足利工業大学 正会員 中川 三朗
足利工業大学 正会員 藤島 博英

1. 目的

現在、日本のインターネット利用人口は、携帯電話、パソコン、その他の通信機器を含め、約7000万人とも言われている。そのような情報化社会の中で、意見収集に使用するアンケートは大半のものが紙での形式をとっている。紙でのアンケートでは「面倒くさい・自分が何かしても意味がない」などのアンケート協力に対するマイナスイメージや、回収率のわりにコストが嵩む、回収したアンケートデータの処理や管理が不便などの問題が生じる。ここでこの問題を解決する一つの手段として、インターネットを通じたアンケートシステムが提案できる。住民の支持のもとに計画の算定・施策の立案を進めるにあたり、住民に効果的な情報開示を通じ、実際に計画に参加してもらい、ストレスなくアンケートに答えてもらうこと、計画決定の理解を求めることが重要になってくる。そこで本研究はゲーム感覚で回答者も楽しく参加でき、より多くの人の意見が取り入れられ、データ等の管理が容易となるWEB-GISアンケートシステムの作成と意見収集、その調整方法について研究した。

2. GIS概要

GISとは(Geographic Information Systems)を略した呼称で、地理情報システムです。文字や数字、画像などを地図と結びつけて、コンピュータ上に再現し、位置や場所から様々な情報を統合したり、分析したり、分かりやすく地図表現したりすることが可能なシステムのことである。また、情報システムの中に構築されたデータ類を空間(地表・地価・地上・領域等)を現す地図データと融合することで、整理、分類、統合し、新たな価値と意味を創造するものでもある。

3. WEBGIS概要

WEBGISとは、インターネット上で使用することの可能なGISである。このWEBGISで優れている点は、POIという形式でデータを書き込める、属性データを表示できるなどである。電子マップ上の建物、道路、オブジェ等に属性をつけられるため、ユーザーはその場の雰囲気をつかみやすいのも特徴の一つである。

4. アンケート関連結果

WEBGISアンケートシステムを使用してもらい、アンケートを行った。実施アンケートはWEBGISアンケートシステムを使用したアンケート、使用後の簡単な紙の形式のアンケートである。対象地域はWEB上で、対象者は一般的なインターネット閲覧操作能力のある者15名、一般的なインターネット閲覧操作能力のないもの15名の計30名である。前者を回答者A、後者を回答者Bとし以下に例を取りアンケート結果を示す。

- Q1 以前にこのようなアンケートを使用したことはありますか？
Q2 使用方法はすぐにお分かりになりましたか？
Q3 紙での形式のアンケートと比較して面白いと思いましたか？5段階評価でお答えください。
Q4 もしあなた自身がアンケートに答えると仮定して、どちらのアンケートを使用したいと感じましたか？

キーワード GIS WEBGIS 意見調整方法

連絡先 〒327-0843 栃木県足利市大前町268 足利工業大学 中川研究室 TEL 0284-62-0605 E-mail : cityx@ashitech.ac.jp

	従来の紙の方式 (人)	WEBGISアンケート(人)
総合回答	4	26
回答者A	0	15
回答者B	4	11

表 4 - 1 Q 4

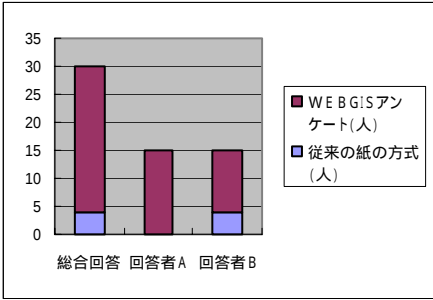


図 4 - 1 Q 4

質問Q 4 について：約 8 7 %の回答者がWEBGIS アンケートを選択した。今までのアンケート結果を踏まえると、結果がすぐ表示される機能・雰囲気の捉えやすさなどが大きく影響していると考えられる。また操作をもっと簡易にすれば、より高い結果を得られると推測される。

5 . 意見調整方法概要

都市計画を実行する上で重要となってくる中の一つに、住民一人一人の意向を取り入れ、意見を調整するという問題がある。人はそれぞれ違う考え方を持っているので、一つの計画を実行するに当たり、意見がぶつかってしまうのは当然のことである。この章ではより多くの意見を取り入れられ、円滑な計画の実行が可能となる意見の調整方法について検討した。

・意見がまとまりにくいときの計画案に立案について

意見を統合していくということは大変な作業である。ただらとただ計画案を立てているだけでは、意見はまとまるはずがない。ここで、ひとつの方法を用いて計画案を立案してみる。計画案に対して、仮説を与えてみる。例えば、計画案 1・2 あったとしよう。計画案 1 に意見を集中させて計画を行いたいとして、回答者の意見は真二つに割れていると仮定する。ここで、計画案 1 に恐怖仮説というものを与えてみる。恐怖仮説とは、審議中の計画案がほごになって、目標が達成できなくなると、どのくらい恐ろしい事態になるか、それを具体的に指示することができるかせつである。話を戻すが、計画案 1 に恐怖仮説を与えると、基本的には計画案 1 に意見がまとまりやすくなる。

5 . まとめ

紙での形式のアンケートとWEB アンケートを比較すると、圧倒的にWEB アンケートが優れていることが分かる。回答者のアンケートの結果からも同じ結果が得られることが推測できる。これからの時代のニーズに応えていくには、WEB を使用したアンケートは欠かせないものとなってくることは確実だと考えられる。ただ現段階では課題は山積みである。今後の課題として、WEBGIS を組み込んだときにもっと効率よくWEB 上で動かすこと、回答者を集めるためにはどのような手段を用いればよいのか、さらによりよい意見調整のためには、どのような手法を用いればよいのかなどが挙げられる